

埼玉 GPN NEWS

Saitama Green Purchasing Network
埼玉グリーン購入ネットワークニュース
第9号 2012年9月30日

～環境への負荷が少ない商品・サービスの優先購入を進める
首都圏初の地域ネットワーク～

埼玉GPN NEWS 2012.9.30



横塚正秋会長

CONTENTS

- トップインタビュー
(社) 埼玉県トラック協会
会長 横塚正秋氏…………… 1
- 第5回定期総会と埼玉グリーン購入フォーラムを開催 …… 2
- 車の賢い選び方…………… 3
- 再生可能エネルギーレポート
「都市部での小水力発電」～さいたま市水道局～ …… 4

(社) 埼玉県トラック協会横塚会長との対談 トラック業界のCO₂削減対策と省エネ対策について

埼玉GPN江田会長が横塚会長を訪問し、CO₂削減と省エネ対策について、協会の取り組みなどについてお聞きしました。



横塚会長、江田会長対談

江田：(社) 埼玉県トラック協会は、「CO₂削減対策と省エネによるコスト削減対策」に、大変、力を入れられていると聞いておりますが、どのような取組みをされているのでしょうか。

横塚：地球温暖化の要因とされるCO₂排出量を抑制するためには、自動車の燃費向上が必要となりますが、このためには、低公害車、低燃費車の導入、エコドライブやアイドリングストップなどの取組みが必要となってきます。

まず、CO₂削減対策としては、自動車NO_x・PM法によるディーゼル車規制や埼玉県による独自の規制が盛り込まれた「埼玉県生活環境保全条例」などに対応するため、平成13年に「排ガス対策特別委員会」を協会に設置し対策に取り組んでまいりました。

また、平成16年には「安全自動車特別委員会」を設

置し、当協会独自仕様の安全自動車の実証実験などにより安全対策と省エネ対策向上に取り組んできました。

こうした事業を具体的に推進するため、これまでに天然ガス自動車や低燃費トラック導入費用の助成を延5,500両分、粒子状物質減少装置に対しては8,700両分の助成を行うなど、排ガス、省エネ対策に積極的に努めてきました。

また、エコドライブなどによるコスト削減対策としては、デジタルタコグラフ・ドライブレコーダーを延11,900両分助成し、安全対策と省エネ対策への取組みを支援しています。

当協会総合教育センターは、昨年度はエコドライブを始めとした各種乗務員研修などを延7,300人に対して実施し、省エ



トラック協会(教育センター外景)

ネ対策を推進する上で大きな役割を担っています。

江田：協会として、環境対策をしっかりとされているのですね。

横塚：「安全と環境」これが当協会の2大テーマです。我々は、事故を発生させる確率が有るわけですから、「安全」というのは最重要テーマにしています。そのためドライバー教育などもしているわけです。また、排ガスという部分で「環境」に影響を与えていますので、排ガスを削減するのは当然のことであり、プラス環境の維持ということについてもできることはさせていただいています。セーフティー(安全性)とエコロジー(環境保全、省エネからの環境維持)、エコノミーが基本的なキーワードとなっています。

江田：ハイブリッド車や電気自動車などの次世代自動車の導入というのは、まだ先の話なのでしょうか。

横塚：ハイブリッド車が盛り上がっているのは、日本

だけではないでしょうか。電気自動車は、充電の頻度が高すぎるので、インフラが整わないと実用性は難しいと思います。最近シェールガスなどの天然ガスがクローズアップされていますが、CNG車も充填場の問題があります。一方、トラックをCNG車にしようとする車両が重くなってしまい、積載量が確保できなくなってしまうのです。

江田：そんなに違うものですか。

横塚：我々は何台もCNG車やハイブリッド車を導入して実証実験をしていますが、通常の4tトラックで積載量3.2tくらい可能なものが、CNGのトラックだとボンベなどの重さが加算され2.7tくらいの積載量となってしまいます。車両制限令という法律を改正し、CNG車にする場合はボンベなどを積載重量として扱わないようにしない限り、普及は難しいと思います。結局環境に優しい車両にすればするほど車両自体が重くなってしまふのです。

江田：そうすると台数が増えてしまいますね。

横塚：はい1台あたりの排出量は確かに減りますが、積載量が0.5~0.6t落ちますから、その分30%くらい車両を増やさなければならなくなります。

江田：他の次世代エネルギー車利用はいかがでしょうか

横塚：電気自動車を水素で走らせるという方法がありますが、水素を作るためには電気が必要ですし、最先端のプラグインハイブリッドも、新たに電気の需要が必要になるわけです。結局天然資源の中で、使えるエネルギー源を利用するのが一番いいのですが、そうすると原油か天然ガスとなります。しかし総重量規制があるため、天然ガス車は使いたくても使えません。積載量を確保してもらえれば、何の問題もなく環境にやさしいトラックを導入できるわけです。

江田：貴協会では、社会貢献事業としての環境対策も推進していると伺っておりますが。

横塚：平成18年に埼玉県森林公社と協定を結びまして、秩父地域における「トラックの森づくり」を進めるほ



トラックの森植樹事業

か、緑ある快適な空間の創造を目指して、県内各地域においても植樹を進めております。

江田：大変、貴重なお話を有難うございました。国民のライフラインを担う上で重要な役割を果たしている

トラック業界において、CO₂削減や省エネ対策を先進的に取組んでおられ、大変、感心いたしました。今後とも環境対策推進のために引き続き御努力を賜りたいと思います。

第5回定期総会と埼玉グリーン購入フォーラムを開催

さる6月13日(水曜日)に埼玉県新都心ビジネス交流プラザアルーサA館4階にて、埼玉グリーン購入ネットワーク



第5回定期総会を開催いたしました。多くの参加者を得て、無事議案も通過することができ、今年度も事業を進めていくこととなりました。埼玉GPNも設立して早5年経ちましたが、未だグリーン購入という言葉についても一般化しておらず、また2015年にはすべての自治体がグリーン購入に取り組むこととなっており、一層のグリーン購入の推進が求められています。

当ネットワークは、全国GPNと連携しながら、地域に根差したグリーン購入の普及活動を行っています。今年度は、ニュースレターの発行、埼玉県が開催するグリーンサロンへの参加協力、講演会や見学会などを交えた学習会の開催などを予定しています。より多くの会員団体との連携や参加を得て活動を展開していきたいと思っていますので、会員の皆様の積極的な参加を期待しています。

当団体は、昨年度東北大震災で被災した「みやぎグリーン購入ネットワーク(みやぎGPN)」に、5周年記念事業のために積立金を見舞金として持参いたしました。そのお礼に、みやぎGPNの山岡事務局長が、忙しい中総会に駆けつけてくださいました。「仙台や石巻は徐々に復興していますが、地域の企業は未だ震災前のような事業をすることができないところも多く、そのような企業を支援するためにも、私たちが積極的に購入をしていくことが重要」とおっしゃっていました。

最後に懇親会を開催し、会員の皆様と交流のひと時を楽しみました。

総会後は恒例の埼玉グリーン購入フォーラムを開催しました。フォーラムは最近のホットな話題や取組などをテーマとした講演会形式のもので、毎年総会後に開催しています。今回は、「カーボンフットプリント(CFP)」に着目し、基本的な学習とともに消費者へのコ

コミュニケーション手法や活用法などについて理解を深めるとともに、今後の事業活動の参考となるような内容としました。



経済産業省等主導により実施された「カーボンフットプリント (CFP) 制度試行事業」は2011年度をもって終了し、2012年4月より社団法人 産業環境管理協会による新CFPプログラムの民間運用が開始されました。まず最初に産環協の伊藤聖子氏から「今後のカーボンフットプリントの動向について」とCFPについての総論をお話いただきました。その後実際に活用している現場からのカーボンフットプリント取組事例として、三信化工株式会社の「学校給食用食器のカーボンフットプリント」、株式会社チクマ「ユニフォームのカーボンフットプリント」についての報告がありました。

産環協の伊藤氏の講話は、多岐にわたる内容で原料の調達から廃棄までの排出される二酸化炭素の計算方法や表現の仕方、コミュニケーションツールとしての役割、また活用方法など分かりやすく解説をしていただきました。また取組事例としては、学校給食食器の製造メーカーである三信化工の海老原誠治氏からは、学校でのCFPを取り入れた環境学習の取組事例の報告、またユニホームメーカーであるチクマの前原良治氏からは、衣類からのCO₂排出量は想像以上に大きく、CFPの表示によって身近な環境負荷を知ることができ、消費者との環境コミュニケーションに有用とのお話がありました。

今回は多くの参加者を得ることができ、用意した資料が足りなくなるほどでした。参加者からは、「意外性があった面白かった」、「とても参考になった」との意見がほとんどで、「CFPについて理解が深まった」、「CFPの仕組みが分かった」、「新たな企業のキーポイントについて知る機会が得られた」などの声が寄せられました。アンケートでは、このような講演会の継続を望む声も寄せられ、今後もこのようなホットなテーマを設定し、定期的開催していきたいと思えます。

車の賢い選び方

グリーン購入ネットワークのホームページ上で商品の環境情報をチェックすることができます。商品の購入時には、エコの視点で選ぶことも重要です。

環境のことを考えた自動車を選ぶポイント

- 1) 燃費が良くCO₂排出量が少ないこと
- 2) 排出ガス中のNO_x・HC・CO・PMが少ないこと
- 3) エアコンに使用する冷媒は、オゾン層破壊と地球温暖化影響が小さく、その量が少ないこと
- 4) 鉛、水銀、カドミウム、六価クロムを極力含まないこと
- 5) 車室内のVOC濃度が低減されていること
- 6) 使用後にリサイクルしやすいように設計されていること
- 7) リサイクル材料が多く使用されていること
- 8) 車外騒音が小さいこと

※GPN「自動車」購入ガイドラインより

●燃費が良い車種を選ぼう

自動車のライフサイクル全体で排出されるCO₂排出量のうち、走行時に排出されるCO₂排出量は50%以上。だから燃費の良い車を選ぶことがとても重要です。燃費の良さを示す指標の一つが燃費基準達成車のステッカーです。



でも、同じステッカーが貼られた車種でも、車両重量によって燃費基準値が異なるために、燃費が数km/L違うことも。だから、ステッカーと同時に実際の燃費値で比較することがさらに重要です。

※2012年6月時点の「エコ商品ねっと」掲載車種(ガソリン乗用車1501~2000cc)のうち、2015年燃費基準を達成している54車種間の燃費上下差は5.4km/L。

車によってはアイドリングストップ機能やエコドライブ支援機能があります。走行時の燃費向上のためには、これらの機能の有無も購入時のチェックポイントです。

●エアコンの冷媒使用量の少ない車種を選ぼう

自動車のエアコンに使われる冷媒はHFC-134a(代替フロン)。地球温暖化への影響はCO₂の1300倍。フロン類は自動車リサイクル法に沿って回収されますが、カーエアコンへの冷媒充填時や、事故や補修時にも漏れる場合もあるので、なるべく冷媒使用量が少ない車種を選ぶこともポイントです。

※2012年6月時点の「エコ商品ねっと」掲載129車種(ガソリン乗用車1501~2000cc)のうち、冷媒使用量の上限(800g)と下限(400g)の差は2倍。

●車種別の環境情報は「エコ商品ねっと」

自動車の車種別環境情報は「エコ商品ねっと」で関

覧・検索できます。「エコ商品ねっと」は年4回(3、6、9、12月末)環境情報を更新しています。

エコ商品ねっと <http://www.gpn.jp/econet/>

再生可能エネルギーレポート
「都市部での小水力発電」～さいたま市水道局～

水力発電といえば山間部で水の落差を利用して発電するものと思われがちですが、高低差の少ない平坦な地形が特徴のさいたま市で、水力発電が行われていることは、あまり知られていないかと思えます。高低差がなくとも、それに代わりうる水圧があれば水力発電が可能となります。

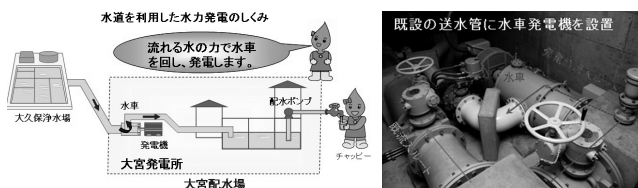
平坦な都市部では、水道水を遠くを送るために浄水場で高い圧力をかけて各市町村に給水しています。さいたま市の水道局では、県の大久保浄水場が距離的に近いために水圧が高く、減圧してから家庭に給水しています。この減圧エネルギーを電気に変えられないかと考え、小水力発電事業の取組が始まりました。

水道設備の利用は、河川水や農業用水を利用する場合に比べて水にごみ等の混入がないため、小水力発電に適しているとのこと。

さいたま市水道局では、平成16年3月に運転開始した白幡発電所を皮切りに、平成23年4月に大宮発電所、同年11月に北部発電所が稼働を開始しています。今後新たに2ヶ所の小水力発電所が増設される予定です。

この小水力発電は共同事業体として、さいたま市水道局が水力エネルギーを提供し、東京発電株式会社が建設・運転・保守を行っています。発電した電力は配水場内の動力に全量使われており、発電電力量に伴う環境付加価値は、グリーン電力証書システムにより第三者に移転しています。

昨今、再生可能エネルギーへの関心が社会的に高まっている中、さいたま市水道局の取組は、今まで捨てられていた水のエネルギーを有効活用した画期的な仕組みであり、さらに広がっていくことを期待したいと思います。



- さいたま市水道局 小水力発電所
 - 白幡発電所 年間発電電力量：約41万kWh
(一般家庭およそ120軒分)
 - 大宮発電所 ※1 年間発電電力量：約40万kWh
(一般家庭およそ115軒分)
 - 北部第一・第二発電所 ※1 年間発電電力量：約76万kWh
(一般家庭およそ220軒分)
 - ※1 大宮発電所と北部発電所は、東京発電株式会社との共同事業です。

「再生可能エネルギー見学会のお知らせ」
 日 時：2012年11月21日(水) 10:30～17:30頃
 集 合：さいたま新都心NTTドコモ埼玉ビル1階前
 見学先：神流川沿岸発電所(小水力発電)
 行田浄水場(メガワットソーラー)
 ※詳細はホームページをご覧ください。

埼玉GPN会員一覧

順不同
 りそな総合研究所(株)、(株)ぶぎん地域経済研究所、(株)ハイディ日高、(株)テレビ埼玉ミュージック、大宮アルディージャ、浦和レッドダイヤモンズ、(株)氏家製作所、埼玉日産自動車(株)、柏木建設(株)、武州ガス(株)、(株)ヤオコー、(有)タカザワ企画、(有)パル、(株)関東パイプ技研、(株)小山本家酒造、埼玉トヨペット(株)、ポラス(株)、リコージャパン(株)関東営業本部埼玉支社、望月印刷(株)、(株)埼玉交通、(株)イーシティ埼玉、新日本有限責任監査法人さいたま事務所、(株)大和ライト工業、(株)ピクルスコポーレーション、(株)F M N A C K 5、(株)デサン、(株)タカヤマ、(株)アクセル、(株)ピージーサービス、武州産業(株)、(株)埼玉りそな銀行、(株)ビルテクノマイニチ、(株)イー・シー・エス、(株)松永建設、(医)誠昇会北本共済病院、(株)マツハ、税理士法人レッドサポート、(株)武蔵野銀行、(株)アルク設計事務所、埼玉県信用金庫、(株)八洲電業社、(株)エンライト、(株)フォーム、(株)アライ、(株)ジャスト、東京ガス(株)埼玉支店、(株)ユーパーツ、溝口洋紙(株)、(株)エコ環境システム、(株)松柳園、(株)甲商、(株)ビルヒット、(株)東京化成製作所、アピカ(株)、ケミテックシー・エス・エス(株)、武正(株)、北海製罐(株)、コクヨマーケティング(株)埼玉支店、富士ゼロックス埼玉(株)、国際チャート(株)、計測サービス(株)、三国コカ・コーラボトリング(株)、(株)ベルエール、(株)ハイクレー、フォーレスト(株)、サンケイ銅器(株)、大成ロテック(株)、(株)ジャパンアート、(株)アートドットコム、(株)シール堂印刷埼玉事業所、(株)埼玉ディエスジャパン、(社福)埼玉福祉会、毎日興業(株)、(株)与野フードセンター、マルキュー(株)、(株)メガ・ネットワーク、(株)埼玉新聞社、(株)国太楼、(株)エヌ・ティ・ティ・クオリス、(株)太陽商工、戸田市、埼玉県、入間市、さいたま市、日高市、川越市、川口市、生活協同組合さいたまコープ、(特非)E Eハーモニー、埼玉県商工会連合会、(財)さいたま市産業創造財団、(財)埼玉県産業振興公社、埼玉中小企業家同友会、さいたま商工会議所、埼玉県中小企業団体中央会、(財)埼玉県公園緑地協会

■ 入会案内
 団体会員、サポーター(個人会員)があります。申込書はHPからもダウンロードできます。ぜひ一緒にグリーン購入を。

■ 発行：埼玉グリーン購入ネットワーク
 〒337-0053さいたま市見沼区大和田町2-1322大和田NPOプラザ内
 TEL.048-749-1217 / FAX.048-749-1218
 E-mail saitamagpn@yahoo.co.jp
 Home Page <http://www.saitamagpn.jp/>